

今後の防除及び管理について

福光フルーツ生産者協会
福光農業協同組合
富山県砺波農林振興センター

1 概況

果樹研究センターでは、ふじの果実肥大は8月18日現在（満開後116日）、横径72.7mm（前年比92%、平年比99%）となっています。

病害虫は、ハダニ類が散見され、また、カメムシ類・ヤガ類の吸汁被害果が一部園地で散見されます。

2 防除について（ふじ基準）

今後、褐斑病の発生しやすい時期となりますので、薬剤散布時は、散布ムラの無いよう、ていねいに十分量を散布（※）してください。

※：農薬散布時は周囲の他作物や住宅等への飛散防止に努めてください。特に通学路に面した園地では、登下校時の時間帯等、十分注意してください。

散布時期	対象病害虫	散布薬剤	使用倍率	100%当たり薬量
9月1日頃	輪紋病、褐斑病、斑点落葉病 ハマキムシ類、ケムシ類	ストロビードライフロアブル フェニックス顆粒水和剤	3,000倍 4,000倍	33g 25g
9月11日頃	褐斑病、斑点落葉病、すす点病、すす斑病	ベフラン液剤25	1,500倍	66ml
9月21日頃	褐斑病、炭そ病、斑点落葉病、すす点病、すす斑病	ストライド顆粒水和剤	1,500倍	66g

※対象病害虫のうち、ゴシック体が重点防除病害虫。

※上記薬剤の使用時期は、いずれも収穫前日（24時間前）まで。

※ハダニ類の再発がみられる場合、オマイト水和剤（750倍 収穫3日前まで年間1回）を散布する（散布前日までに草刈りを実施すること）。

※カメムシ類の発生が多い場合は、バリアード顆粒水和剤（2,000倍 収穫前日まで年間3回以内）を散布する。

※炭そ病の被害果が多い園地では、9月11日頃の防除にオーソサイド水和剤80（800倍 収穫前日まで年間6回以内）を加用して散布する。

※展着剤を加用すること（マイリノーの場合 10,000倍（10mL/100リットル））。

3 台風等の強風対策について

今後、台風等強風被害の発生しやすい時期となります。被害を軽減するため、台風の接近前および通過後に、以下の点に留意して対策を実施してください。

（1）骨格枝等の支柱入れ

「りんご管理情報 No. 6」の「4 支柱入れについて」を参照

（2）事前点検・通過後点検

ア 支柱・結束縄の点検：若木等の支柱や結束縄の点検・補強

- イ 防風施設の点検：支柱やネット等の点検・補強
- ウ 排水路等の点検：明きょ、暗きょ等排水路の点検・手直し

(3) 被害が発生した場合の事後対策

- ア 傷口の保護：枝折れ等の傷口はきれいに切り直し、トップジンMペースト（使用回数：年間3回以内）等を塗布する。倒伏した樹は、速やかに立て直しを行うとともに、根元がぐらつかないよう支柱で固定する。また、根回りのかん水を実施する。
- イ 防風施設の点検：防風網等の被害の有無を点検し、適宜、補修する。
- ウ 褐斑病等の感染防止：長時間の強風や大雨があった場合、すみやか（1～2日後）にトップジンM水和剤（1,500倍 収穫前日まで、年間6回以内）を散布する。

【注意事項】

- ・強風が吹いている間や、河川・用水が増水している間は、大変危険なので決して園地の状況等を見に行かないでください。
- ・落果果実のうち炭そ病り病果は、放置すると新たな感染源となるので、園地外に持ち出して適切に処分してください。

4 早生品種の収穫について

収穫期が高温の場合、着色が遅れますが、着色を待って収穫すると取り遅れにつながります。必ず糖度や食感等の食味を確認し、適期収穫に努めてください。

5 中生品種の管理について

(1) 着色管理

葉摘み作業は、9月初旬頃から、収穫時期の早い品種から順次行い、玉回しは陽光面が着色してから行ってください。なお、「秋映」や「紅玉」など、軸の短い品種は落果しやすいので玉回しは行なわないでください。

(2) 収穫前落果防止

「秋映」、「陽光」、「秋陽」、「紅玉」、「こうたろう」等の中生品種は、本年のように夏季が高温となった場合、収穫前落果が多くなります。収穫前落果が見られる場合は、下記を参考に落果防止剤を散布してください。

散布時期	使用目的	散布薬剤	使用倍率	使用方法
収穫開始予定日の21～4日前(各品種の収穫時期に応じて散布する)	収穫前落果防止	ヒオモン水溶剤	1,000～2,000倍	立木全面散布

※薬液が葉先から滴り始める程度の量をムラ無く樹全体に散布する。

※展着剤は加用しない。※使用回数は2回以内。

- 農作業に当たっては、こまめに水分を補給するなど、熱中症に留意してください。
- 脚立での作業や、農業機械での作業時等の作業安全対策を徹底し、農作業事故発生防止に十分努めてください。